

担当：岡本富郎（明星大学名誉教授・元早稲田大学非常勤講師）

テーマ「戦争と自己中心の心」

先ず「国際連合教育科学文化機関 [ユネスコ憲章]」の言葉を紹介しましょう。

「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

1. なぜこのテーマを掲げたのでしょうか。毎年、7月には「戦争と平和」について、みんなで考えて、我が子が「平和を愛する」子どもになってもらうために「親はどうあったら良いか」について考えています。現実的には「ロシアによるウクライナへのミサイル攻撃」がまだ続いていて、「幼い子ども」が殺されています。

また、「イスラエルとハマス戦争」ではイスラエルによる攻撃で、パレスチナのガザでは今でも毎日「乳児や幼児」が殺されています。特にガザでは「食料不足」の為に「栄養失調」で亡くなった子どもや「餓死の状態」で亡くなっている子どもが今も続いているのです。人類は一体何をしているのでしょうか！

2. 日本もかつては「太平洋戦争」でアジア諸国を侵略して、アジアの人たちを殺し、ベトナムでは、食料を奪ってその国の人たちを餓死に追いやったということが分かっています。二度と戦争を起こしてはいけないことを「日本国憲法」の前文では、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し」、と書かれています。このようなことを踏まえ「戦争はなぜ起こるのか？」、「戦争を起こさないためにはどうしたらよいのか」について考えたいと思います。私は若い頃は「戦争は国の社会構造」、「経済状態」、「イデオロギー」（決まった特定の1つの考え方）等によって起こるのだと思っていました。でも今は違います。「戦争は人の自己中心の心」から起こるのだと考えています。

3. 初めに「ユネスコ憲章」の言葉を紹介しました。「戦争は人の心の中で生れる」と明記されていました。そうです。「国の社会構造」等を生み出すのも「人間の心」です。そして、もっと掘り下げて具体的に言うと「自己中心の心」が「戦争を起こす」のです。

4. 今述べた「自己中心の心」について考えましょう。

①人間はみんな「自己保存本能」を持っています。この「自己保存本能」に基づいて「自分の命・生活を守る」ために生きています。これは悪いことではありません。したがって「生きる権利」は守られるべきです。子どもたちも「自分を守る」ために「自己主張」をしたり「ケンカ」もします。

②しかし、子どもたちは「自分を守るための自己主張やケンカ」を通して「相手がいる」ことを学びます。そういう学びを通して「他の友だちも自分を守る本能」を持っていることに次第に気が付くようになります。この「成長」が大切です。子どもたちは親や先生たちから教えられながら「違う考え方の人が居る」ことを「心の中に」しっかり抱き続けることが出来るように育って行きます。そして「ソウカ！Aちゃんもシャベルが使いたいんだよね！」と察する心が育って行きます。もちろん、簡単には、すぐ「譲ること」は出来ません。

5. そのためには、どうしたらよいのでしょうか。子どもたちは、時には先生方の援助を受けながら「二人で話し合えば良いのです。」話し合って「お互いの相手の考え」を理解することです。そうしながら「順番に使おうか」と思うようになるのです。良く話し合えると「ケンカ」ではなく「平和」の関係が生れます。私は、国同士もお互いに、会って「話し合うこと」が「戦争」を防ぐ不可欠の方法だと考えます。子どもたちが園生活を通して普段行っていることです。大人や政治家も「話し合うこと」、つまり「外交」をもっと増やすこと

が必要です。そして国民同士も「交流」をして他国の人たちと理解を広く、深くし合うことが「平和」の元となるのです。お互いの意見の「違い」だけを見るのではなく「相手の良い点」をも見て学び合うことが「平和」に繋がるのです。

6. 難しいことですが、親として、時々自分の「自己中心の心」を見つめながら「子育て」が出来れば素晴らしいですね。夫婦関係、親子関係、職場の人間関係において、このことがなされて行けば、そこには「平和な関係」が生れることでしょう。我が子がそうした「自己中心の心」を意識する「家庭環境の雰囲気」に包まれながら生活して行けば「優しい心」を持った子どもに育って行くことは間違いありません。

7. 子どもはみんな「優しい心」を持っていて、「困っている友達」を助けてあげたいという気持ちを秘めながら生活し合っています。

1つの「事例」を紹介しましょう。過去に私が30年ほど毎月保護者の方々と「話し合いの会」を開いて来た幼稚園での事例です。＜年長クラスの事例＞です。

ある未就園のお子さんの保護者から、「6歳の女の子」（仮名A子ちゃん）の「入園」の願いがありました。左半身が思うように動かないお子さんなので、不憫に思い、「わがままの生活」を認めて「子育て」して来たとのことでした。しかし「小学校入学」をさせたいので、入園させて欲しいということでした。私たちはご両親と話し合った結果「幼稚園ではわがままを認めません。キチンと「しつけ」をしながら保育をします。家庭でも協力をして戴きたい」という厳しい条件を申し上げました。

入園後のA子ちゃんは「自分だけ外で遊び」、勝手な生活をしていました。担任は「A子ちゃんのそれまでの事情と園での保育」について子どもたちに説明をしました。「初めは子どもたちから文句が出ました。」でも、「優しい心を持っている子どもたち」は、少しずつA子ちゃんの不思議さに気が付いて「協力」するようになって来ました。「衣服の着脱」から始まって生活の仕方の面倒をみんなで見ようになりました。徐々に園生活に慣れて来たA子ちゃんは、何とか一緒に生活が出来るようになって来ました。そして2学期になってからは、自分から出した手を繋いで「ダンス」をするようになって来ました。

ある日のことです。同じ組の面倒をよく見て来た、優しいB子ちゃんが、A子ちゃんに向かって、泣き乍ら言うのです。「A子ちゃん！小学校に行っても、同じ組に入るとは限らないんだよ！自分のことは、自分で出来るようにならないとダメじゃない！」と叱ったのです。A子ちゃんは、普段とても優しいB子ちゃんに叱られた時、泣かないで、じっと黙って聞いていたそうです。B子ちゃんは、小学校入学後のA子ちゃんが心配で仕方がなかったのです。

B子ちゃんのように子どもたちには「優しい心」があります。親でもないB子ちゃんは、「優しさに包まれた涙」を流しながら「A子ちゃんを叱ったのです。」

それ以降のA子ちゃんは、「心の中」でB子ちゃんや友だちの言うことをよく聞いて人が変わったようになって行きました。このように「友だちへの優しさ」に溢れるB子ちゃんたち。そしてその「優しさ」がA子ちゃんの心に響き渡って、A子ちゃんと一緒に子どもたちはみんな、「育ち合って行きました。」ここに「子どもたちが築く「平和の育ち合い」があるのです。

大人も、子どもたちのような「理解する優しい心」を持って、他の人たちや、多くの国の人たちと交流が出来れば、社会も世界も「平和」に向かって行くのではないのでしょうか。

今回「実行すること」の難しい内容を書きました。出来る範囲のことを一歩ずつ歩んで行くことが一番大切だと思います。子どもが「平和を愛する」ようになることを目指して、私も一緒に歩んで参りたいと思います。宜しくお願い致します。